

いどばた

第28号

気仙沼コミュニティペーパー

発行
2014年
7月23日

今回のいどばたには、こんな内容が掲載されています。

- ★ 自分で作る幸福
 - ・ 渡戸住宅 『手仕事と地域交流』
 - ・ 階上中学校住宅 『編み物教室』
- ★ いつまでも 心の中に
 - ★ 酢と重曹でカビきれい?!
 - ★ 南 輝久さん! 千葉-青森 1,000kmマラソン!!
- ★ 他団体紹介
 - ・ 特定非営利活動法人 あすわ
 - ★ 「ポーポー」と言いながら 傷に息を吹きかける
 - ★ 『いどばた』作成側のつぶやき

渡戸住宅にお住まいの畠山 喜代恵さんはパッチワークなどの手仕事が好きで、震災前からカルチャー教室へ通い習っていたそうです。2014年2月から地域で知り合った方達や他住宅の友達などに作り方を教え交流を深めています。談話室内は和気あいあいとした雰囲気、今回出来上がった作品の表情はそれぞれ作った方々の個性あふれるものでした。畠山さんの作ったパッチワークやつるし雛などの作品をご覧になりたい方は、気仙沼復興協会 福祉部(畠山・木下)までご連絡ください。



連絡先：0226-22-6211

「皆さんも、なんでもいいからやって欲しい。自己満足の世界だけど、出来上がった時の達成感や喜びを感じることができる。“手仕事をやっていて良かった”」と言っているときの表情は生き生きとしていました。



自分で作る幸福



階上中学校住宅集会所で2013年11月から毎週水曜日の9時頃～昼頃まで住民主体で『編み物教室』をしています。以前、支援で入った方に「編んでみませんか」と声を掛けられたことがきっかけとなり、集会所に皆で集まろうと始まりました。多いときには10名ほどの参加者があったようですが、引越しをする方も増え現在は4名を中心に活動をしています。住民同士で編み方を教え合い、お茶を飲みながら親睦を深めています。

作品はどれも素晴らしく、コットン毛糸で作った『チュニック』や様々な形をした『エコたわし』など、見ていだけでも可愛らしく、これからどんな作品ができるのかとても楽しみです o(´▽`)o!!



いつまでも 心の中に

『気仙沼復興協会 ボランティア受入部』は全国からいらっしゃるボランティアの方々に海岸清掃や被災した地域の環境整備などを行っていただく調整を行っています。今までに気仙沼復興協会ですけ入れた人数は2013年度末までで約14,000人にのぼります。



2013年12月から気仙沼警察署と連携して行っている『集中搜索活動』は7月のボランティアの人数を含め計304名の方が気仙沼に足を運び協力を頂いています。その中には、リピーターの方も多くいるそうです。毎月11日に行われる搜索活動は台風通過予定日と重なるおそれがあつたため、日付を変更して7月14日(月)に搜索活動が行われました。急な変更にもかかわらず5名のボランティアの方々に伊勢浜海岸(沖ノ田～野々下)の搜索活動に暑い中ご協力頂きました。

復興に協力を頂いている私たち気仙沼市民も、何か出来ることを情報発信し、自分たちで気仙沼を盛り立てていきましょう!!

協力が必要であれば、ご連絡ください。

(社)気仙沼復興協会 ボランティア受入部

連絡先：080-1661-1804



酢と重曹で カビきれい?!

準備するもの

- 酢 ●重曹(100均で購入できます)
- 水 ●スプレーボトル



掃除するときの注意点

- ★カビの胞子が気管などに入り、アレルギー症状を引き起こすことがあります。掃除をするときには、必ずマスクをしてください。
- ★天然素材ですが、ゴム手袋などを使用すると手荒れを防げます。
- ★ブラシなどでパッキンをこするときは、傷がつかないように軽くこすりましょう。

やり方

- ①スプレーボトルに、酢と酢の4倍量の水で薄めた液を作ります。
 - ②カビが生えているところ全体に液を吹きかけ数時間放置し、古歯ブラシなどで丁寧に取ります。
 - ③②で取れない場合は、その上から重曹を振りかけます。(化学反応で二酸化炭素が発生するためシュワシュワと音がします)
- ※③の上から①の液を吹きかけることも可能です。
- ④1時間程放置し、古歯ブラシなどでこすり取ります。



南 輝久さん! 千葉-青森 1,000km マラソン!!

長崎県長崎市にお住まいの「南 輝久(みなみ てるひさ)」さんは、2011年12月から被災地の仮設住宅でCDコンサートの活動をしています。今年の8/22(金)から25日間かけて千葉県旭市～青森県三沢市まで『還』の文字が入った旗を背負い被災地を走ります。『還』には、「行方不明者の魂や霊がふるさとの家族のもとへ還れるように」「ふるさとを追われ避難している方々が1日も早く再生されたふるさとへ還れるように」との願いが込められています。

走るルートには気仙沼市内も含まれ9/5(金)と9/6(土)が通過予定になっています。お時間のある方は沿道で応援をしてはいかがでしょうか。



自分も股関節に持病を抱えていますが、うまく付き合い諦めないで1,000km走り抜きます。皆さんも体を大事にして、自分を信じて負けずに諦めないで暮らしてほしいと思っています。

- ・国道45号線を北上し県道26号線に入る
- ・気仙沼大橋を渡り港側通過
- ・鹿折を通り国道45号線へ合流
- ・旧45号線を迂回
- ・小原木中学校の下の道を通り国道45号線に合流し北上



気仙沼で活動している他団体紹介

『特定非営利活動法人 あすわ』は、外部支援の受け皿が必要と考え2012年7月から唐桑町を中心に活動が始まり、当初はイベントを中心に“唐桑臨海花劇場”“あすわ映画祭り”などを開催してきました。現在は、高齢の方と子供たちが一緒に農作業などをする事で、唐桑の自然や文化・暮らしの知識や魅力を学び身につく場を提供し、未来を担う子供たちに継承していくことに力を入れています。また、休耕地になっている畑を開拓していきたいと考えており、休耕地の情報を集めているそうです。

30～40代の若者が唐桑町限定で特化し、畑作業をしています。少しでも農業に興味がある方は一緒にやりましょう!! - 『あすわ』代表 -



「ポーポー」と言いながら 傷に息を吹きかける

KRAスタッフ ささゆみちゃん から聞きました!!

知っている方もいるかと思いますが、皆さんはご存知でしょうか？これは、古くから本吉地域に伝わる伝承だそうです。

※ 下記に記載した物語は、元の文章を簡約し掲載しています。

昔、本吉町林の沢にポーポー様という人が住んでいました。

ポーポー様はある吹雪の晩、山から下りてきましたが、その寒さで病氣になってしまい、あるお宅で看病を受けました。ポーポー様は他から来た人で言葉がわからなかったようです。元気になったポーポー様は病人のところを訪ね、痛いところを優しく撫で「ポーポー」と息を吹きかけて治してくれたそうです。

その後、村人と仲良く暮らし一生を終えました。

村人はポーポー様の墓を建て、病氣のときは墓へ行き病氣が治るようにお願いしたそうです。



本吉町林の沢にある「ポーポー様の墓」

実際に、お墓があるという場所に行って来ました。『伝 ポーポー様』と書かれた木製の目印があり、少し奥まったところに墓らしき石碑が建ててありました。石碑には文字が刻まれていましたが風化のため、ところどころ消えて読めませんでした。ある本吉町の資料によると、寛文8年(西暦1667年) 月日と戒名が刻まれているそうです。

本吉町で300年以上経ち語り継がれ、まじないとして残されていることに驚きました。他の地域でも、気に掛けなくてもこのような風習はあるのかもしれませんが。



作成・編集

(社) 気仙沼復興協会

【KRA】福祉部

気仙沼市赤岩港14-1 2F

TEL 0226-22-6211

FAX 0226-22-6212



協力

★SEEDS ASIA
(シーズ アジア)

★CIVIC FORCE
(シビックフォース)



CIVIC FORCE

こんにちは『きのっぴ』です。今回、これまでのKRA福祉部の活動を振り返ることで、様々な活動をしてきたことを改めて実感することができました。それから、本吉の伝承もそうですが『いどばた』を作ることで、普通に暮らしているだけでは知り得ない気仙沼の情報などを、沢山知ることができ嬉しく思います(*^-^*)

★いどばた29号は9月下旬に発行予定です♪

KRAってなに??

KRAとは「(社) 気仙沼復興協会」の略です。気仙沼市民の力で気仙沼を復興させることを目的とし、震災による失業者を中心に設立されました。清掃作業、写真救済作業、ボランティアの受け入れ、発掘作業、仮設住宅や周辺地域のコミュニティ支援などの復興事業を行っています。

